



羽村市商工会青年部企画(☎042・555・6211)の「第8回はむら激辛フェス2024」が、市内45店舗で2月1日から始まった。同市で収穫した青唐辛子を使った店舗独自の激辛料理を楽しめる。

# 45店舗が激辛料理提供 はむら激辛フェス2024開催中

羽村市商工会青年部企画(☎042・555・6211)の「第8回はむら激辛フェス2024」が、市内45店舗で2月1日から始まった。同市で収穫した青唐辛子を使った店舗独自の激辛料理を楽しめる。青唐辛子の栽培は市内の中野修一さんと中根一明さんの農家2軒が協力。昨年夏から青年部メンバーらが数回に渡り収穫作業を行い、計100キロを参

## 「蒼天 秋留台地に生まれて」

パーク商事(あきる野市上代継)会長の橋本健司さんが1月16日、自伝『蒼天 秋留台地に生まれて』を地域紙の西の風新聞社(同市館谷)から出版した。祖父、父から継いだ土地を元手に幾多の事業を起し、奔走。地方政治、地元商工界でも影響力のある立場から地域の発展に尽くした波乱曲



自伝を出版した橋本さん(前列左から2人目)。親族とともに

## 橋本健司さんが自伝出版 波乱曲折の人生

折の人生が綴られている。自伝は、挑の章、絆の章、繋の章、政の章、

創の章、結の章で構成。1934(昭和9)年に養蚕農家の長男として生まれ、高校卒業後、農業、養鶏業、ボウリング場、シヨッピングセンター、宿泊業、飲食業、建設業などを展開。2015(平成27)年に事業を三女のゆかりさんに継承するまでを記した。1人の人間にこうも数々の出来事があるのかと驚く展開で、橋本さんの人生とともに、昭和、平成、令和の時代を回顧できる。

## 吉川英治記念館で生頼範義展

青梅市吉川英治記念館(同市柚木町、☎0428・74・9477)で現在、新

## 迫力ある原画作品



迫力ある原画と英治作品の関連資料を展示

春展示「生頼範義(おおらのりよし)展」が開かれていた。迫力ある原画と英治作品の関連資料を展示している。生頼さんは、英治の没後4年の1966(昭和41)年に講談社創立60周年を記念して刊行した吉川英治全集『三国志』の

の秋川市、五日市町合併が事実上決まった発端が明かされていて、地域史の観点からも興味深い内容だ。

「よう、合併すべえじゃなかよ。橋本健司氏の言葉に、白井孝秋川市長は「合併しよう」と呼応。田中



激辛フェスに取り組む青年部の皆さん

雅夫五日市町長が領いた。平成大合併の先陣を切った新市誕生の瞬間だった。(帯書きより)

橋本さんは「秋留台地に生まれ育ち、夢中で生きてきた私の足跡を子や孫に伝えたいと思った。成功もあつたが、憂き目も見た。逆境の時に常に支えとなつたのが、祖父母、父母への報恩感謝と家族を守りたい、幸せにしたいという純粋な願いだった」とプロローグに綴っている。価格は1500円(税別)。



開館時間は10時~17時。月曜休館。入館料は一般1500円、小中学生200円。3月17日まで。

## 西多摩経済新聞が市民の「街記者」を募集

地域の魅力や地域課題、地域ブランドなどを発信する。記事はインターネットの西多摩経済新聞で配信するほか、ヤフーニュースなどにも掲載される。活動前には記事作成などの講座を開く。問い合わせは090(8460)9688岡村まで。

新聞広告のイラストを依頼された。劉備や曹操ら英雄を点描で描き人気を博し、その後も『宮本武蔵』をはじめ『私本太平記』など吉川英治作品の装画、挿絵などを描いた。1980年には映画「スター・ウォーズ帝国の逆襲」の国際版ポスターを監督のジョージ・ルーカスさんから依頼され担当。「ゴジラ」シリーズなどの映画ポスターやSF小説の表紙絵なども手掛けた。異彩を放つ作品は文化庁映画賞功労賞、日本SF大賞功績賞、星雲賞アート部門賞などを受賞した。